

杏林大学大学院保健学研究科

平成28年度秋学期 在学生による研究報告会プログラム

12月15日(木) B206マルチルーム(三鷹キャンパスとの中継あり)

発表時間:修士は報告10分、質疑7分(計17分)／博士は発表15分、質疑10分(計25分)

時間	演者		分野	指導教員	題名	座長
9:00- 9:05	大瀧研究科長 開会の辞					
9:05- 9:22	保修2S	木下 瑞貴	臨床検査・生命科学	石井(和)教授	LC-MS/MS 法による Equol とその抱合代謝物の一斉分析法の検討	岡田教授
9:22- 9:47	保博4S	小濱 優子	保健学・救急救命学	照屋教授	手動的介入がケア実施者自身の心身へ及ぼす影響に関する基礎的研究	大木教授
9:47-10:04	保修2S	青島 悟	臨床工学	嶋津教授	透析用監視装置の安全監視項目に関する計測装置の作成と運用システムの開発	四倉教授
10:04-10:21	保修2S	木村 礼美	臨床工学	嶋津教授	汎用データベースとタブレット端末を利用した透析業務支援システムの開発	四倉教授
10:21-10:30	休憩					
10:30-10:47	保修2S	濱 祐輔	臨床工学	嶋津教授	複合的な電気刺激を利用した、皮膚感覚の定量的分類評価に関する研究	四倉教授
10:47-11:04	保修2S	相原 圭太	リハビリテーション科学	八並教授	脳卒中片麻痺患者における痙縮の経時的変化 -足関節底屈筋痙縮計測装置 (Eisei Spastic Ankle Measure:E-SAM) による測定-	丹羽教授
11:04-11:29	保博2S	内田 賢一	リハビリテーション科学	八並教授	健常高齢者の呼吸機能の縦断的研究および運動介入効果に関する研究	丹羽教授
11:29-11:35	休憩					
11:35-12:05	渡部 和彦 教授		特別講義「筋萎縮性側索硬化症(ALS)の病態解明をめざして;運動ニューロン疾患モデルの構築と解析」			大迫教授
12:05-13:00	お昼					
13:00-13:30	山田 賢治 教授		特別講義「基礎と臨床の架け橋を目指して」			川村教授
13:30-13:55	保博2S	太田 智裕	リハビリテーション科学	齋藤(昭)教授	回復期脳卒中者における下肢装具の適用に関連する動作能力の特性と下肢装具が動作能力へ及ぼす影響の検証	丹羽教授
13:55-14:20	保博2S	清水 夏生	リハビリテーション科学	齋藤(昭)教授	回復期脳卒中者の入院中の身体活動量が生活機能に及ぼす影響	丹羽教授
14:20-14:45	保博4S	大城 直美	リハビリテーション科学	丹羽教授	I型糖尿病モデルラットにおける 腹壁筋を支配する運動ニューロンと筋の形態変化について	八並教授
14:45-14:55	休憩					
14:55-15:20	保博4S	玉木 徹	リハビリテーション科学	丹羽教授	糖尿病に起因する筋の機能障害と運動ニューロンの形態学的変化	八並教授
15:20-15:45	保博4S	長島 泉	リハビリテーション科学	下田教授	手の心的回転課題を用いて評価した一人称的運動イメージ能力の加齢による変化	八並教授
15:45-16:02	保修2S	山本 裕美	保健学	太田教授	自治体の専門職(保健師・助産師等)が行っている妊婦への母子手帳交付時面接の効果について	川村教授
16:02-16:27	看博2S	伊藤 有美	実践看護科学	中島(恵)教授	人工呼吸管理中の重症患者における病態に応じた疼痛評価の検討	川村教授